



(発行)  
熊本市教育委員会事務局  
学校教育部 総合支援課  
学校サポート班  
(文責)  
指導主事 田中 慎一郎  
tanaka.shinichiro@city.kumamoto.lg.jp

## 子どもの未来に向き合う ネット問題に関する通信を発行

子どもたちのインターネットトラブルが増加している。熊本県警作成の平成30年度版「肥後っ子のシグナル」によると、ここ数年の少年犯罪の減少の一方で、インターネットに起因する加害及び被害少年人数の増加が指摘されている。小学生のスマートフォン所持が増える一方で、家庭での使用に関するルールの存在率が上がらない。また、インターネットに関する知識の親子での格差も問題の一つとなっている。

以前多かった飲酒、喫煙、暴走行為等が形を変え、インターネット空間でさまざまなネットトラブルになって現れているとも考えられる。飲酒や喫煙とネットの問題を、いずれも少年非行と捉えたと、その非行の出る場所と形に変化があるといえるだろう。非行の裏には、いつの時代も大人たちが作る社会の影の部分がある。少年非行は、それらを彼らが背負った結果出現するものではなからうか。SNSをはじめとするインターネット上でのトラブルから子どもたちを守る方法の答えは、なかなか見つからな

い。学校でも家庭でも、悩みの種になっているのではないだろうか。

こういった状況を受け、各家庭や学校の中でこれらの問題について話し合う材料の一つとして本通信を不定期ではあるが、発行することになった。題名は「プログレス」。子どもたちの未来を良い方向へ、一歩前に進めたいという思いを込めた。様々な場で活用していただければありがたい。

### 家庭に帰る子ども

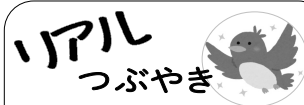
夏休みがやってくる。子どもたちが家庭に帰るシーズンである。虫取りかごを肩に担ぎ、真っ黒に日焼けして、汗をかき遊びまわる。部活動に精を出し、この夏で一回りも二回りもたくましくなる。しかし、今の夏休みは少しだけ違うようだ。それは、インターネットがあるからである。家族との時間の中にも、スマートフォンの先には友達がいる。家族旅行でも、友だちとの連絡は欠かさない。つまり、オンとオフの境目があいまいで、家庭の中に子どもたちが完全に帰ってこないの

である。しかしその一方で、子どもたちは、夏休みは学校からは開放される。学校の指導が届きにくい場に身をおくのである。家庭の定番である。子どもを家庭に戻す夏休みであってほしい。

### 動画投稿の先をイメージする

今、子どもたちの間で流行っているアプリTik Tok(ティックトック)。音楽に合わせて振りをつけ、その動画をインターネット上に投稿する機能を持つ。簡単に撮影して加工でき、それをボタン一つで投稿できるのが売りとなっている。これが、中高生だけでなく小学生にも流行っている。

しかし、この投稿は、インターネット上で一生消えないデジタルタトゥーとして残ってしまう可能性をばらんでいる。Youtubeには、「TikTok削除系」「黒歴史」「やば系」「やっちゃった」などというTikTok動画をまとめたものが存在する。自分や友だちを撮影したものが、何者かの手によってさらに編集され、Youtubeに載せられている実態を大人はもっと知るべきかもしれない。仮に削除依頼をTikTokにするとしたらどうだろう。残念ながら、このアプリは中国の会社のもので、中国の法律が適用される。



餅には、きなこより醤油が合うと思っている田中です。ここでは、日頃の日常生活のちょっとしたことをつぶやきます。突っ込みどころ満載ですが、肩の力を抜きお読みください。(^^)

電動自転車というものに初めて乗りました。ペダルが軽い！ すいすい行きます。なんて便利な乗り物でしょう♪信号待ちで止まります。こうなるといろいろなボタンを押してみたくありません。あれ？電気がつかない……ん？ どうやらバッテリー切れで走ってみたいですね。アシストしていたのは、電気ではなく、私の思い込みの力でした。人は、思い込んだらそれが現実のように感じる時があります。SNSでの書き込み。ひょっとしたら誤解もあるかもしれません。おや？と思った場合は確認すること！私のように、信号で止まるまで勘違いしながら走り続けたいようにしたいですね。

状況は複雑である。スマホを持たせていなくても、友だちといっしょに投稿している場合もある。投稿の先にある未来を親子でイメージしてもらいたいと願う。

**自**分の子どもは、自分の家庭で守りたい。子どもたちがネットトラブルに巻き込まれるケースが年々増加している。被害者にも加害者にもなるネットトラブル。これらは、情報端末の所持に関わらず発生する。昨年度、熊本市立の小中学校で行われた心のアンケートでは、小学3年生以上の所持者の66%が「家庭内ルール」があると回答した。裏を返すと34%の家庭は、子どもの自由な意志のまま使用している現状である。トラブルは人と人の間に存在する。ルールを持たない子どもは、当然それに遭うリスクも増加する。自分、そして友だちを守るためにも、どのようにしてルールを作っていけばよいか、また、どのようにして運用していけばよいかをこのコーナーでは考える。ルールは、単に縛り付けるものではなく、子どもたちをリスクから守るために作らなければならない。リスクについては、右の「家庭で考える情報モラル」をご一読していただくとうわかる。参考にさせていただきたい。



### 保護者向けリーフレット「家庭で考える情報モラル」

熊本市教育委員会では、子どもたちをネットトラブルから守るために、情報モラルに関するリーフレットを作成しております。ご家庭での情報モラル教育にご活用ください。

右のQRコードからご覧下さい。

